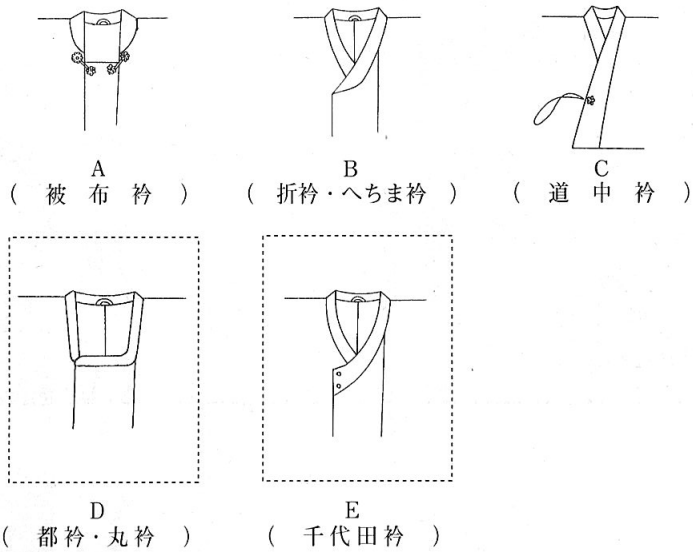


平成30年度和裁士技能検定（1級）学科試験解答

実施日：平成31年3月10日
 所用時間：90分

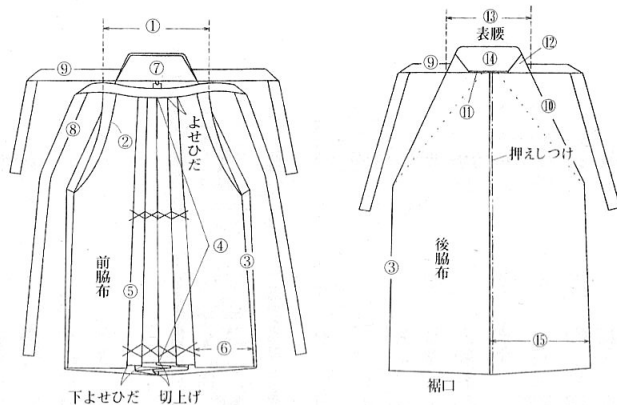
1. 次の3つのコートの衿型名を記入し、それ以外の変り衿コートの名称と前から見た図を書きなさい。ただし、道行衿は除く。（配点5点）



2. 下記の（ ）に適切な語句を入れて文章を完成させなさい。（配点10点）

- 名古屋帯の手丈は普通、（ 胴回り ）×2に75～80cm (2尺～2尺1寸) 位を足した寸法になる。
- 女物長着の袖丈は羽織の袖丈よりも（ 長く ）、男物羽織の袖丈は同寸又は（ 長い ）。
- 被布衿コートに襦は付かないが、子供物被布に襦は（ 付く ）。
- 短尺物で長着の裁ちをする場合、衿を工夫した（ かぎ衿裁ち ）や（ うば衿裁ち・衿三つ割り裁ち等 ）がある。
- 本裁長着の紋位置は、背紋は衿付けより（ 5.7cm (1寸5分) ）、袖は袖山より（ 7.5cm (2寸) ）、抱紋は肩山より（ 15cm (4寸) ）下がったところである。

3. 次の図は、男物行灯袴の完成図であるが、①～⑮の名称を記入しなさい。（配点15点）



- 前腰巾
- 笹ひだ
- 相引
- 紐下
- 一のひだ
- 前脇巾
- 裏腰
- 前紐
- 後紐
- 投げ
- 玉ぶち
- 付菱
- 後腰巾
- 腰板
- 後巾

4. 次の（ ）の中に適切な語句を記入しなさい。（配点10点）

- 天然繊維の中では、（ 絹 ）の繊維が最も長い。
- 糸は、撚る方向によって右撚りと左撚りに区分され、左撚り糸のことを（ Z撚り ）ともいう。
- 糸の太さは、糸の長さや重量の関係によって表示され（ デニール ）と番手法がある。
- 繭から引き出した一本の生糸は、二本のフィブロインとそれを包む（ セリシン ）からなる。
- 経糸と緯糸の異なる素材で織った織物を（ 交織織物 ）という。
- 打掛の下に締める帯は（ 掛下帯 ）である。
- 男子の正装用の帯は（ 角帯 ）である。
- 髪置きは、（ 三 ）歳の祝である。
- お宮参りの初着の袖は、（ 大名袖 ）である。
- 有松絞り、博多絞りは、主として、（ 綿 ）布に絞られる。

5. 次の織物の産地の県名を（ ）の中に記入しなさい。（配点10点）

- 紅花紬（ 山形 ）
- 塩沢お召（ 新潟 ）
- 郡上紬（ 岐阜 ）
- 白山紬（ 石川 ）
- 唐棧縞（ 千葉 ）
- 仙台平（ 宮城 ）
- 黄八丈（ 東京 ）
- 結城紬（ 茨城 ）
- 佐賀錦（ 佐賀 ）
- 丹後縮緬（ 京都 ）

6. 次の文を読んで、正しいものには○、誤っているものには×を付けなさい。（配点5点）

- （ ○ ）女物綿入れ長着の寸法、用尺、裁ち方、ヘラ付けは女物袷長着と同じでよい。
- （ × ）袴天の裾折り返しは、後身頃より前身頃の方を多くする。
- （ ○ ）無双羽織の胴接ぎは前裾か肩山です。
- （ ○ ）井戸の井の字を圖案化したものを井桁文様という。
- （ × ）唐草模様は日本古来のものである。

7. 和服の寸法と身体各部の寸法の関係について、下の例にならって記入しなさい。（配点5点）

- 《例》本裁女物長着の身丈 → 身長と同寸を基準とする。
- 本裁女物長着の衿肩明 → 首のつけ根回り×1/4 を基準とする。
 - 本裁女物長着の裾下 → 身長×1/2 を基準とする。
 - 本裁女物長着の裾 → 身長×0.4+2cm を基準とする。
 - 本裁男物長着の身丈 → 身長-26～27cm または 身長×0.83～0.85 を基準とする。
 - 本裁女物長襦袢の身丈 → 身長-27～30cm または 身長×0.8～0.83 を基準とする。

8. 下表は和服の紋下りを記したものです。表を完成させなさい。（配点5点）
 ただし、cm又は鯨尺でもよい。

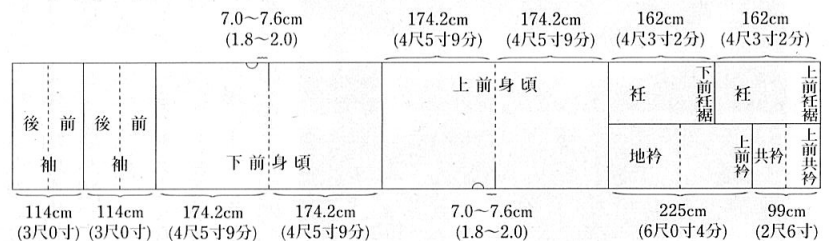
名称	本裁男女	四つ身	一つ身
背紋下り (衿付けより)	5.7cm 1寸5分	4.5cm 1寸3分	4cm 1寸
袖紋下り (袖山より)	7.5cm 2寸	6.5cm 1寸7分	6cm 1寸5分
抱き紋下り (肩山より)	15cm 4寸	13cm 3寸5分	11cm 3寸

9. 次に挙げる左側の語句のふりがなを（ ）の中に記入し、右側の説明文で関連のあるものを線で結びなさい。（配点 ふりがな各1点、線各1点）

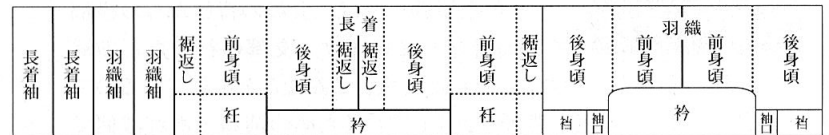
直垂 (ひたたれ)	1. 平安時代公卿の日常着である。
晴装束 (はれしょうぞく)	2. 宿直装束ともいい、東帯の略装である。
素襖 (すおう)	3. 女官の正装で女房装束或いは、十二単ともいう。
直衣 (のうし)	4. 形は、大紋と同じであるが紋のないものをいう。
衣冠 (いかん)	5. 武士が鎧下に着用したもので、後に武士の公服となった。

10. 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい（裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入）。（配点各問5点）

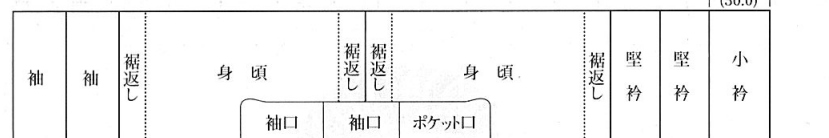
(1) 並幅物12m50cm(3丈3尺)の反物で、一つ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。
 裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
 身丈背より出来上り165cm(4尺3寸5分)、袖丈出来上り53cm(1尺4寸)、繰越2.6cm(7分)、裾下(衿下)出来上り81.5cm(2尺1寸5分)、他は標準寸法とする。
 (注)袖の前後、上前身頃、上前衿、上前衿裾などの位置を明記すること。



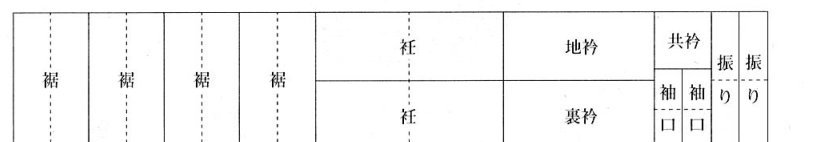
(2) 並幅物15.2m(4丈)の反物で、四つ身長着(共裾)と羽織を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。



(3) 並幅物11m(2丈9尺)の反物で、女物千代田衿コートを作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、小衿のみ要尺を記入しなさい。



(4) 並幅物11.08m(3丈1尺2寸)の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。



(5) 並幅物12m(3丈1尺7寸)の表地で二部式雨コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。

